

ねばら (k), ごえういちど (k), こがねいちど (k), からいとさう (h), **まめ科**—たひつりわうぎ (h), りしりわうぎ (h), しろうまわうぎ (k), いはわうぎ (j), みやまのえんどう (k)。 **おとぎりさうり科**—みやまおとぎり (h)。 **せり科**—はくさんさいこ (h), しらねにんじん (h), やまうみきやう (h), はなうど (h), はくさんばうふう (h), いぶきばうふう (h)。 **しやくなび科**—しらたまのき (k), あをのつがざくら (j), みやまほつつじ (h)。 **いはうめ科**—こいはかがみ (k)。 **ざくらさうり科**—おほざくらさう (h)。 **りんだうり科**—いはいてふ (k), たうやくりんだう (h), をのへりんだう (h), おやまりんだう (h), みやまりんだう (h), はないかり (k), みやまあけぼのさう (h), ちしませんぶり (k)。 **そどりこさうり科**—みそがはさう (h), たてやまうつぼくさ (h), いぶきじやかうさう (h)。 **ごまのはぐさ科**—うるつぷさう (k, h), みやましほがま (j), よつばしほがま (j), たかねしほがま (j, k), えぞしほがま (j), ひめくはがた (h), しなのくはがた (h), **すひかづら科**—りんねさう (k)。 **さきやうり科**—ちしまぎきやう (h), いはぎきやう (h)。 **さく科**—たかねかうりんくわ (h, j), たかねやはすははこ (k), うさぎぎく (h), ひとつばよもぎ (h), みやまおとこよもぎ (k), たかねよもぎ (h), ごまな (h), はくさんあざみ (h), えぞむかしよもぎ (h, j), うすゆきさう (j), ちやうじぎく (h), たかねかうぞりな (h, j), くらたうひれん (h), きをん (h), みやまあきのきりんさう (h)。 **いね科**—ひげのがりやす (h), いはのがりやす (k), ひなのがりやす (h), おのへがりやす (k), みやまこめすゝき (h), こめすすき (k), おほうしのけぐさ (h), みやまどぜうつなぎ (k), みやまあはがへり (h)。 **かやつりむさ科**—こたぬきらん (k), いはすげ。 **る科**—みやまゐ (k)。 **ゆり科**—ねばりのぎらん (k), しろうまあさつき (h), きんこうくわ (h), いはしやうぶ (h), ひめいはしやうぶ (k), ちしまぜきしやう (k), たかねあをやぎさう (j, k)。 **らん科**—しろうまちどり (k)。

滿蒙ノまたたび (其二)

高橋基生

M. TAKAHASHI: Stories and gossips in my journey
through Manchoukuo (II)

北票ノ一夜ハ天來ノ福音ニ白々ト明ケタ。聞ケバ、我が友、神山氏が奇々シクモ運命ノ神ノ偶意カ、明日コノ北票炭坑ヲ見學ニ來ルトカ。筆者ハ何回トナク疑ツテ見タ。望郷ノ幻想カ、妖魔ノ惡戯カト。東都デ相見エテ以來既ニ一歳餘、來ル日本人トテモ稀ナ戰塵未ダ收リ切ラヌ熱河ノ地ニ、堅ク握リ交セル手が延ビテキヤウトハ、誰ガ信ジラレヤウ。

今日ノ調査第一日ハ待チ人ヲ期待スル目ツキダト經驗ニ蘊蓄ニ其ノ豊カサヲ誇ル某氏カラ、有難クモ御注意ヲ戴ク程輝カシイ門出デアツタ。先ヅ土塀ノ上ノえのころぐさノ一種ニ採集ノ手ヲ上ゲテカラ街角ヲ曲ガルト、『ビール瓶ノ破片ヲ「コンクリート」ノ塀ニ植エ

込ンダ泥繩式泡ノ食ヒ振リ』ヨリハ同ジ無知デモコレハ又、ヨッポド風流的デアル。さねぶとなつめノ刺枝ヲ土塀上ニ無雜作ニ重ネテキル。然モ乙ニスマシタ商賣人ラシイ女ガ門カラ視クト、滑稽ニモ其ノ前ヲ野猪性ノ黒豚ガ、オ家ノ大事トバカリ不自由ナ首モ斜メニ、怪シゲナ筆者達ヲ流シ目ニ睨ンデ、一日散ニ注進ニ及ブノデアル。街ヲ巡ル名バカリノ土壁ヲ離レルト、晝ノ世界ハ既ニ郊外迄モ、皇軍ニ保證サレテ居ルト見エテ、我ガ世ノ春ヲ歌フ一人ノ若人ガ、轡片手ニ妻子ヲ勞ハル、ナゴヤカナ鼓腹擊壤振リニ接スルノデアル。

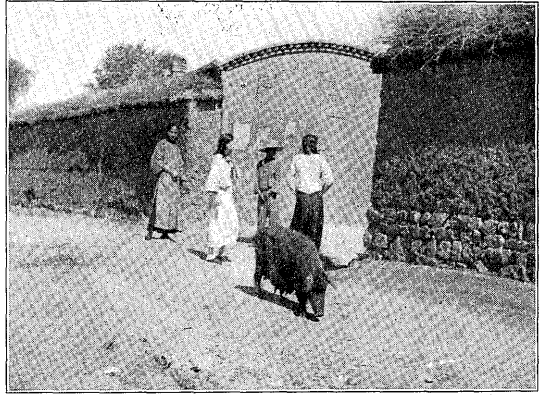


Fig. 17. さねぶとなつめ刺枝ヲ植エタ土塀ト野猪性ノ滿洲豚

川沿ヒヲ進ム程ニ、北票^{リヤン}糧^{ツアン}棧ヲ指シテ、大豆ヲ運ブ、驢馬ノ一隊ニ出會ツタノデアル。三尺ニモ滿タナイ丈ト、鹿ノヤウナ四肢ノ何處カラ出ル力カト驚ク程ノ嵩高ナ荷ヲヨチヨチト背ニシテ行ク様ハ、傍目ニハ、氣ノ毒ノ極ミデアルガ、偕テ御本人ノ心ハ知ル由モナシデアル。去ル人ノ話ニヨルト、内地カラ

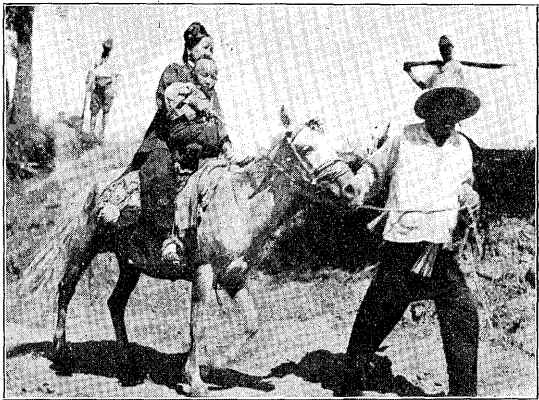


Fig. 18. 吾ガ世ノ春ヲ運ブ北票郊外ノ一景（著者撮影）

來タ者ハスグ同情ニ陥リ易ク、動物ニシロ、苦力ニシロ、庇ヒ過ギテ却ツテ彼等ヲ増長サセルトイフノデアルガ、是カ、否カ。聖人デナクトモ、惻隱ノ情、忍ビ難イ事。イヅレハ修身書デモ改訂セザル限り、内地人ニハ涙ヲ嚙ミ殺スニ相當ノ努力ヲ要スル場面ハ此處、彼處ニ不斷トアル。

驢馬隊ノ目指ス先糧^{リヤン}棧、コレハ滿洲特有ノ制度デモアラウ、言ハバ旅館兼穀物問屋トデモイフモノデ、穀物及ビ其ノ所有者ヲ宿泊セシメル外ニ、其ノ買手ヲ探シテヤリ、且ツ身分ヲ證明シ、盜品デナイコトヲ保證シテ賣買ノ斡旋迄モスルトイフ極メテ重法ナ商賣デ、世界廣シト雖ドモ一寸例ノナイ制度デアル。「必要ノナイトコロニ、制度ハ生レヌ」トイヘバ、滿洲ニ馬賊ノ多イ證左トモ言ヘヨウ。

川ペリノぼぶら林ニ逃ゲ込ム黒豚ノ行ク手ヲ見ルト、小供ヲ抱ク三四人ノ母親達ノ、何



Fig. 19. 糧棧ノ主人ト公盆糧棧ト印シタ牌
及ビ蒙古ひばリノ籠 (著者撮影)

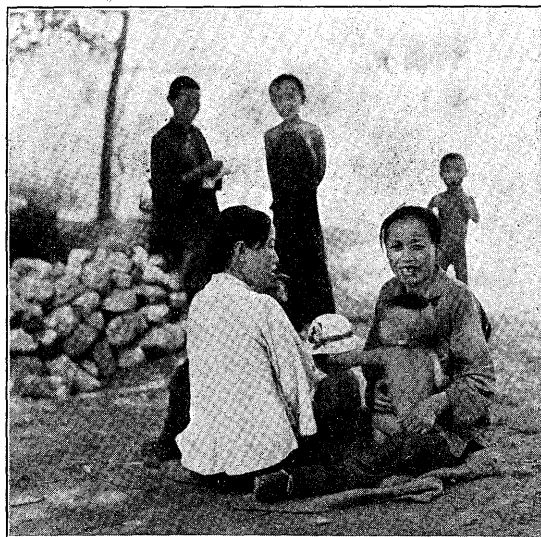


Fig. 20. 人氣物—made in Japan ノ帽子 (著者撮影)

烈日處モ同ジ情味溢フレル一景ガ展開サレテキル。ヲ木蔭ニ避ケテノコノ一群レノ話題踊ニル人氣物ハ、何アラウ、今ヤ世界ノ隅々マデモ席卷スル、made in Japan ノ極印ヲ誇ル、小供帽子ノ一カブリデ、銃後ヲスレズレニ押シ寄セテ來ル、商品軍ニハホトホト敬服シテシマツタ。

コノ邊迄末ルト採集物ハ急ニ數ヲ増シ、件ノぼぶらノ一枝、二枝、ハ母子達ノ異様ナ關心裡ニ折り取ラレ、のにレノ一枝モ、判ツテハキルモノ乍ラ、「取ラネバ氣ガ濟マス」ノ犠牲トナル。熱河柳ノ大木ノ下デ汗ヲ拭フ時モ、只デハ休マスノガ性分デアリ、務メデアル。柳ニ言ハスレバ「底ヲ貸シテ、母屋ヲ取ラレナイ」ノガ未ダ見付ケモノト、擧面カモシレナイ。昔カラ「柳ニ風折レナシ」トイフガ、地廻リノ馬賊デサヘ畏レヲナス、怖イオデサン達ノ一隊トアレバ、

ソウ、ウカウカトハ、不平モ言ヘマイシ、ソウカト言ツテ仲々ニ心ヲ許ス譯ニモ行クマイ。果シテ警備兵ノ一人ガ、手持チ無沙汰ノ餘リ、手ニシタ銃劍デ幹ヲ目掛ケテ一突キ又、一突キ。第一日カラ夜泣キスル腕ノ行ク末ガ案ジラレテナラナイ。

一汗拭イテ目指ス尖頭山ヘノ道ヲ眺ムレバ、前途猶ホ程遠シデアル。行クコト更ニ一里餘リ、五間房ノ部落ニ入ル頃ニハ、腰ノ朱鞘ナラス、一折りヲ如何セント期セズシテ一致シテシマツタ。頃合ヒハヨシ、土塹ニ沿フ熱河柳ノ一群ヲ眞晝ノ太陽ノカザシトシテ懸案ノ折ヲ開クコトニナツタ。食慾ノ以心傳心トイフ奴ニモ、國境ガ無イト見エテ、村人ノ氣ノ效イタノガ冷水^{リヤンスイ}ヲ手槽ニ盛ツテ、來ルナド仲々ノ上出來デアツタガ、併シ辨當穀ヲ小供ト爭フ段トナツテ、折角ノ男ヲスツカリ下ゲテシマツタ。併シ生レテ始メ

テノ米ノ飯トスレバ少々ハ大目ニ見テヤラネバナラヌカモシレナイ。

高粱ト粟ノ盡キルトコロニ、西瓜畑ガコロガツテキタカラタマラナイ、コレガ文字通り西瓜ノ皮切りデアル。人切り庖丁デ割ツタ味モ、時ニハ又一與デアル。正ニ日射病的ト言ヘルコノ炎熱ニ辟易シタノデハ斷然ナイガ、稀ラシクモ、小藍旗ノ蒙古部落附近ニ、百本ニ餘ル滿洲黒松ノ疎林ガアルト聞イテ、豫定ヲ變更スル事ニシタ。何ンデモ、コノ松ハ朝陽縣ニ近イ山中カラ、數十年前ニ移植シタトノ話デアル。伐ツテ見ナイコトニハ確カナ事ハ言ヘヌニシテモ、恐ラク四十年ハ越ヘマイト見タガ、併シ同地方ノ現状カラ押シテ、コノ種ノ造林ニ好適シテキルモノトハ考ヘラレナイ故、或ハ筆者ノ目算ガ外輪ニ外レテ、更ニ年ヲ食ツテ居ルカモ知レナイ。兎モ角ク、北票附近ニハ、コノ外ニ松林ト名附ケ得ルモノハ見付カラヌト云フोटデアレバ、大ニ敬意ヲ表サネバナナルマイ。枝ヲ拂ツテ胴亂ヲ膨ラマセ、村民ノ響應ニナル、まくわ瓜ニ腹ヲ膨ラマセテ愈々歸途ニ就ク可ク、部落ニ這入ルト、戸毎ニ掲ゲタ紙製ノ滿洲國旗ノ眞新ラシサガ、今シガタ揚ゲタコト雄辯ニ物語ル。戰線ノ波濤ガ寄セテハ返ス毎ニ、異ツタ旗印シヲ掲揚スル可ク訓練サレタ人々ノ淺間シクモ、イジラシイ姿デアル。コハニモ踏ミノメサレタ民草ノ慘メサガアル。

靴ノ紐ヲ緩メ乍ラ、沛然タル雨ノ一瞬前ニ歸リ着イタ幸福ヲロクニ嬉ビ合フ。ソレニシテモ、又何トイフ勇マシイ注ギ方デアラウト感歎シツハ、土ノ香高イ、陋屋ノ庇ヲ八分通りニ下シテ取り入レタ薄明リノ下ニ、今日ノ收穫ノ蓋ヲ拂ツタ。待望久シキ、ほそばひめはぎノ可憐ナ舞ヒ姿ヲ川沿ヒノ土手ニ先ヅ見附ケタ時ノ、根掘リ執ル手ノワナナキヤ、荳科ノ一種デ星形ノ黃花ニ菱ニ似タ實ヲ添ヘル面白サヤ、いかかもめづるノ尖端的流線型ノ果實ヤ、紫ノ肩衣ニカシキおほひえんさうノ花嫁姿等々ト一日ノ努メラ了ツタトイフ神聖ナル嬉ビガ、雨足ノ彈ズル狂騒曲ノ伴奏ヲ得テ彌ガ上ニモ高調シ、子供ノヤウナ無邪氣サヲ取り戻シテクレル。

雨ノ上リ方ト來タラ一際鮮カデ、到底内地ノ夕立ノ比デナイ。壁ニ掲ゲタ水銀柱ハ又シテモ、奔騰スル。排水溝ノナイ路面ハ、滔々、錚々トシテ濁水ノ跳梁ニ任セテキル。

昨日トハ 24 時間分ノ膨ラミヲ増シタ、月ヲ中天ニ望ム頃、同ジ庭ニ面シタ、井戸端ニ近イ宿舍カラ、異様ナ呻キガ響ツタ。何デモ自働車ノ運轉士トカデ、「チブス」ノ疑ガアルトイフカラヤリ切レナイ。ソレ隔離サレヌ内ニ、トバカリ擾亂又擾亂。支那式ニ言ヘバ泥濘膝ヲ没スル夜道ヲ見エザル大軍ニ脅カサレテ、落チ行ク様ハ熱河探検ノ勇士モ、何ノコトハナ



Fig. 21. 熱河柳ノ大木ヲ醫シニ汗ヲ拭ク面々（著者撮影）

イ、水攻メニ遭ツテ、リエージ要塞ノ圍ミヲ解イテ逃ケ惑フ獨軍ノ隣レナ狼狽振リト選ブトコロハナイ。先程マデノ意氣ハ今何處ヘヤラ、藥ニシタクモ見當ラナイ。數町離レタ宿舍ニ移リ住ンデ、荷物ト雜魚寢ノ夢ガウトウト結バレル頃、ケタマシク戸ヲ叩ク音、ワメク男ノ泣キ聲、毆リ込ミデモアツタノカト思ヘバ、其ノ間ニ、今ハノ際ニ臨ンダヤウナ



Fig. 22. 北票附近唯一ノ松林 (著者撮影)

哀訴歎願ヲ交ヘテキル。聞ケバ蠍ニ嚙マレタトカデ、同宿ノ津留醫學士ヲ頼ヨリニ、12時モ既ニ廻ツタコノ深夜ノ治療乞ヒトナツタトノコト。同氏モ去ルコト乍ラ、良イ加減、千本刺シニナツタ筆者ノ神經ニモ同情ヲ禁ジ得ナイ。迷想ハ又迷想ヲ呼ンデ明ケ方近クノ犬

ノ遠吠エサヘ幽カナ記憶ノ内ニ迎ルコトガ出來ル。

滿洲ノ泥路ハ三日ト續カズモノノーツカモ知レナイ。霧レ上ツタガ最後、火ノ車ノ如クニ照リツケル日輪ノ猛威ヲ前ニシテハ、道ト言ハズ畠ト言ハズ、川底迄ガ忽チニシテ干上ガテシマウ。コノタメニ熱河バガツリデナク、滿洲一般ニ就イテ考ヘテモ、所謂耐乾性ノ強い植物ガ多イ事ニナル。ソレ故ニ餘程ノ確實ナ水源デモ擁セザル限り、水稻ノ栽培ハ先ヅツテ困難デアアル。筆者ノ熱河旅行中デモ水田ヲ目撃シタノハ南部興隆縣附近ノ數箇所ニ過ギナカツタ。コノ



Fig. 23. ほそばひめはぎノ舞ヒ姿 (著者撮影)

他ニモ人ノ話デハ平泉附近ト圍場附近トニ僅カアルトカ。但シ水稻作モ水利サヘ整ヘバ氣溫關係ノ支障ハ極ク稀デアラシク。北滿松花江畔ノ水田デサヘ、東北六縣ノ如キ悲慘ナ冷害ヲ聞イタ事ガナイ。由來滿洲ノ氣候ハ日本列島等ト異リ海洋ノ影響ヲ受ケルコト少ク、

所謂大陸性氣候デ、晝夜、夏冬ノ氣溫差著シク、從ツテ一年ヲ通ジテ見ルト、五月ト六月トガ僅カニ春ト秋ノ體面ヲ保持スルノミデ、六、七、八ノ三ヶ月ハ全ク火ノ神ノ跳梁ニ任セラレ、殘リノ七ヶ月ハ全ク氷神ノ猛威ノ下ニ左袒セネバナラナイ。併シ乍ラ夏期ノ高溫ト、長日照時トハ作物ノ成育ニ絶好ノ條件デ、水利問題ノ解決サヘツケバ熱河トイハズ、滿蒙ノ大半ノ地ハ水稻栽培ニ適スルト見テヨイ。勿論作物ニハ土壤條件ガ密切不離ノ立場ニナケレバナラヌコトハ言フ迄モナイガ、滿蒙ニ多イアルカリ土壤モ水利サヘツケバ、或ル程度マデ救済緩和出來ルノデアアル。ソレ故滿蒙ノ農業開發ハ水利ヲ基礎ニ考ヘネバナラヌト言ツテモ決シテ過言デナイ。ソノ證據ニ支那棉ノ如キ割合ニ耐乾性ノ強い植物デハ、特ニ「アルカリ性」ノ強い土地ト、北滿ノ北部ヲ除キサヘスレバ滿蒙何處デモ栽培可能デ、其ノ品種ノ改良ハ我が棉業國策ノ進展ト共ニ眞剣ニ考慮サルベキ問題トナツテ來タノデアアル。

御承知ノ如ク、我が國輸入ノ大宗タル棉花ノ自給ハ今日始メテ論議サレルヤウニナツタモノデハナイガ、棉業ノ隆盛ト共ニ其ノ輸入ハ逐年増加ノ一路ヲ辿ルノミデ、今日マデノ其ノ對策ハ常ニ燒石ニ水的ノモノバカリデアツタガ、滿洲國ノ獨立ト共ニ、ソコニ一活路ガ開ケタワケデアアル。併シ一概ニ棉花ドイツテモ、米棉ノ如キ長纖維ノモノト、印度綿ノ如キ短纖維ノモノトガアリ、然モ用途ニヨリ其ノ何レモガ必要デアツテ見レバ、コレニ對スル品種改良モ、自ラ二途ニ分レネバナラナイ。幸ニシテ米綿系ニ屬スル、朝鮮ニ於



Fig. 24. 紫ノ肩衣ユカシキおほひえんさうノ花嫁姿

ケル改良品種タル陸地棉ノ作付ケガ奉天以南ノ地ニ可能ナル事ガ判明シテ來タノデ、農業統制法ノ如キモノヲ制定シテ、奉天以南ヲ出來得ル限り、コレガ栽培地ニ充當シ、以北ハ前記ノ在來棉タル支那棉ノ栽培地ニ當テルコトガ、愈々本格的ニ考慮サレルヤウニナツテ來タ。何レニシロ、滿洲國ハ農蠶業ヲ立國ノ基礎産業ニ置カネバナラヌ事ハ誰モガ認ムル處デアアル。

北票ニ於ケル第三夜ノ目醒メハ、ハテ不思議ト思ヒ返ス程ノ熟睡カラ離レタ。明日ハ愈々朝陽行キトイフノデ、霜ノ朝ヲ慮ツテノ赤峯送りノ防寒具ト、顎ノ延ビルヤウナ炎暑ノ表街道行キノ薄物トヲ七分三分ニ振り分ケルコトニナツタ。ヤガテソレモ濟ムト、何レ赤峯、朝陽モ判ラヌ、追分ノ空ニ憧レル如ク、徒然ニ獨リブラリト街頭ニ出テシマツタ。怪シゲナ

眞鍮ノ金盥ト、古色蒼然タル道具箱トヲ生計ノ天秤棒ノ兩端ニ掛ケテ街ヲ呼ビ歩ク理髮師モ



Fig. 25. 「犬モ食ハヌ物」ヲ食ル滿洲小豚

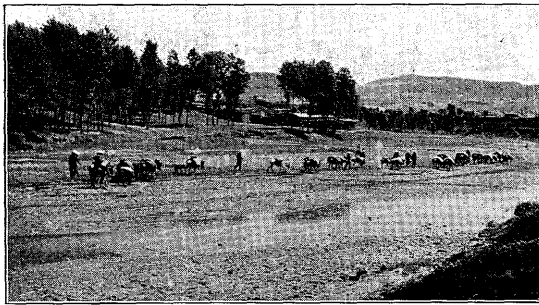


Fig. 26. 雲レ上レバ忽チ道路ニ轉身スル河床

サレテ、仲ニハ吳越同舟ノ極樂往生ト言ツタ形デ、鼠ト猫ノ子ガ枕ヲ並ベテキル等、熱河ダトテコンナ風景ハ、御他聞ニ漏レル筈ガナイ。否、漏レテキルトスレバ、内地デハ澤山アル筈ノ鐵詰ノ空鐵ダトカ、新聞紙ノ屑ダトカガ一向ニ見當ラナイ位ノモノデアル。目星シイ物が盡キタセイカ、サツキカラ、コノ邊リヲ漁リ續ケテキタ犬ガ一匹、少々疲レタ顔付キヲ上ゲテ、見ルトモナク通り過ギテ行ク一群レノ苦力ヲ見送ツテキル。

昔カラ「犬モ食ハナイ話」ト言フテ、日本デハ通り相場ノ事件ガアルガ、犬ガ食ハナイトテ、決シテ棄タモノデハナイ。時折ハ實行モ亦一興カモ知レナイ。現ニ寫眞デ見ル如ク、件ノ一犬ガ一ワタリ漁リ盡シタ筈ノコノ廣場ノ一角ニ七、八頭ノ滿洲小豚ガ何カ別シテ好物ニデモ有り付イタノデモアラウ。相爭ツテ食リ付イテキル。コノ動物ナレバ「犬ノ食ハヌ物」デモ存外口ニ合フカモシレナイ。

汚イ話ノツイデダカラ申上ゲルガ、滿洲モ鐵道沿線ヲ離レルト、便所ト名附ケラル可キモノハ殆ンド見當ラナイ。ソレ故日本農家ノヤウニ農業立國ノ守護神ノ如ク、後生大事

アレバ、臟腑ヤ、頭ヤ、足バカリノ豚ガヨクモ、カウアルモノダト感心サセル程ニ、謂所「ロース」ヲ持チ合セヌ肉屋? モアレバ、鹽ノ中ヲ泳イデ居タカト疑フ程、後生大事ニ、鹽四分魚六分ト盛り上ゲタ、何處ノ産トモ判ラヌ小魚ノ山ノ何某屋モアル。又街角ニハ、コノ暑サニ、「何ノ其ノ」ト言ツテヤリタイ程ニ沸^{クワキスイ}キ返ヘル、開水(熱湯)ヲ賣ル、「スタンド」ガ立ツテキル。信越線ノ高崎驛邊ナラバ「ピーアスタンド」デモアラウモノヲト舌ヲ嘗メズツテモ今更始ラナイ。實際熱河ヘ來ルト、内地人ノ常識等ハ流通價值ヲ失ツタ舊紙幣程ニモ通用シナイ。巡リ飽グンデ、ホツト立ち止ツタ。ト或ル街角ニ續ク空地、ソナナ處ハ内地デモ、不潔ナ埃棄場トナツテ居ルニ違ヒナイ。日々ノ厨埃ヤ塵芥ノ類ガ、處狭シト投ゲ散ラ

ト貯ヘ込ンデ、菜種ト共ニ春先ヲ賑ハスコトハ先ヅ以テ無イノdeal。勿論大都市ノ郊外デハ又話ハ別dealガ、地方ヘ行ケバ何ト言ツテモ、コノ動物ハ街ノ清潔屋デ、恥知ラズノ人間共ノ後始末ニ廻リ歩ク殊勝者deal。然モ其ノ肉ガ又彼等ノ食用トアレバ、重法コレニ過グルモノナシdeal。筆者ハ或ル時、名ニシ負フ逢坂山ナラス、高粱畠ヲ行キ過ギタ

ガ、突然ガサゴソト立ち騒グ物音ニ、富士川畔ノ平民モ只ナラス狼狽振ノ内ニモ僅カニ身構ヘノ餘地ヲ見出シタガ、ドウデアラロ妙齡ノ滿洲婦人ガ風ヲ喰ツテ飛ビ立ツタニハ、安心トモ驚キトモツカヌ胸騒ギヲ靜メルニハ少々骨ガ折レタ。猶ホ滿洲ニ來テ人糞ヲ食物學的ニ、否見方ニヨレバ植物學的トモ言ヘルカモ知レナイ。明白ニ二大別出來ル

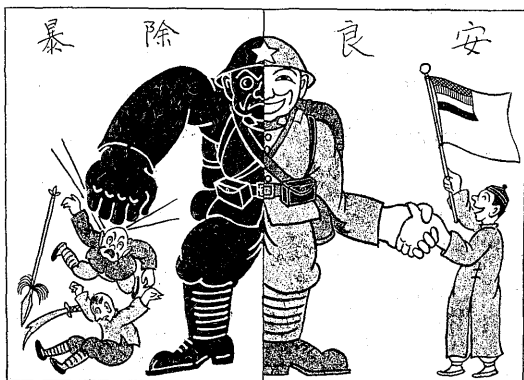


Fig. 27. 蘇秦張儀モ啞然タル宣撫班ノ活躍振り

コトヲ始メテ知ツタ。其ノ鑑別法ガ又振ツテキル、云ハバ動物學的ノ實驗ニヨルモノdeal。其ノ一ハ犬ノ食フ人糞デ中流以上ノ生産品deal。其ノ二ハ夫婦喧嘩ト同列ノ取扱ヒヲ受ケルモノ、即チ犬モ食ハヌ部類ニ屬スルモノデ、主トシテ苦力階級ノ特産物deal。何ニシロ彼ノ地ノ苦力ハ高粱カ粟ニ、生ねぎカにんにくヲ添ヘテ食フノガ關ノ山デ、一日ノ生活費ガ僅カ五錢トアレバ成ル程犬ノ食ヘル物モ出ナイ筈ト首肯サレル。

雨デ延ビタ朝陽行キガ愈々決行サレル、朝マダキハ、何トハナシノ好奇心ニ胸ガワクワクト踊ル。トラックニ滿載サレテ、頭モスレスレニ町ノ西門ヲ出タ瞬間冷ツシテ、フリ返ヘルト墨痕鮮カニ「討匪愛路」ノ建國標語ガ目ニ這入ル。兎ニ角、熱河滞在ニケ月半ノ間何處ヘ行ツテモ「討匪愛路」トヤラレルノデ仕舞ニハ目カラ這入ツテ鼻ニ着クヤウニナル。併シ無智ナ土民ノ教育ニハ、コノ位ノ練バリ強サト拔目ノナイ宣傳振りトガ必要deal。實際今度ノ熱河討伐位日本軍ノ徹底シタ勝利ハナイ。ソレハ武器モ良シ、何モ良シトハ誰モガ言フトコロdealガ、筆者ハ銃後ヲ馳セ廻ツテ「ポスター」張りニ、辨舌ニ、之レ務メタ宣撫班ノ功績ヲ見逃シテハナラヌト思フ。何シロ、蘇秦張儀ノ昔ヨリ、舌頭三寸デ天下ヲ踊ラセタ口カラ先ニ生レタ國民ヲ相手ノコトデハアルシ、並大抵ノ苦勞デナカツタラウト察セラレル。「山上ノ敵ヲ破ルハ易ク、心中ノ敵ヲ破ルハ難シ」ト誰カガ言ツタガ、ソウ言ヘバ、日本軍ノ有史以來ノ大勝利ト言ヘルカモシレナイ。

砂煙ヲ吐イテ、ヒタ走ル「トラック」ノ右手ヲ電信線ガ從ツテクル。明治ノ狂句ニ「輜重輸卒ガ兵隊ナレバ、電信柱ニ花ガ咲ク」ト言フノガアルガ、朝陽ヲ中心トスル電信電話線ノ多クハ柳ノ立木ノ枝ヲ振ツテ架設シタモノデ、吾ガ世ノ春ニハ花モ咲キ出デヤウトイフ。然モ往年ノ名稱ハ輜重兵特務兵ト立派ニ改稱サレルシ、兩輜相俟ツテ、ゲニ朗カナ軍國風

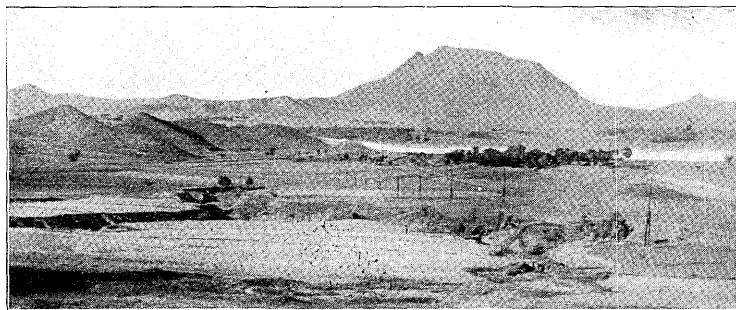


Fig. 28. 或ル峠カウ陶禿山ノ遠望

景ト言ハレヤウ。併シコレガ熱河ダカラ未ダシモ、當今ノ帝都デデモアラウモノナラ、「ギヤング」カラ心中ノ下相談迄ニ電話ガ利用サレルトアツテ見レバ、柳ノ立木モ生キタ身空ハナイデアラウ。

熱河ノ道路ノ特徴ハ其ノオ粗末サモ去ルコト乍ラ、舊來ノ車馬道ニ並行シテ自動車道路ノ新設サレテキルコトデナケレバナラス。併シ筆者等ノ往路ノ折ニハ未ダ改築中ノコトトテ、杜切レ杜切レニシカ通ジテキナイ。コト面倒ト見タノカ、川原挺身隊ニ從ツテ古北口マデ運轉シタトカノ彼氏早速手頃ナ川床ヲ見付ケテ近廻リヲスル。ヤガテ一群ノ熱河柳ノ蔭カラ不意ニ何處カデ見憶ヘノアルヤウナ山容ガ盛リ上ツテ來ル。聞ケバ陶禿山ト言ツテ、名ノ如ク禿ゲ上ツタ塊狀ノ孤峰デアル。裾ヲ廻リ峠ニ登リツメテ、「マスク」ト塵除ケ眼鏡ノ砂ヲ拂フテ、振り返ルト、一層其ノ岩山ノ憧シサガ判キリトスル。フト前途ヲ望ムト、薄雲

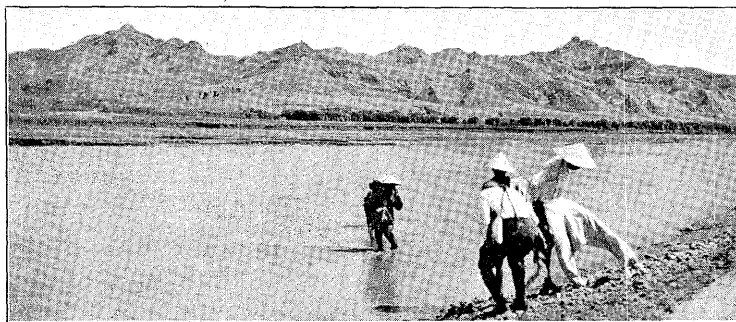


Fig. 29. 大凌河ヲ隔テテ鳳凰山塊ト其ノ頂上ノ喇嘛塔ヲ望ム

遙カ彼方ノ山上ニ、音ニ聞ク朝陽三座塔ノ内、二基カ恰モ取り殘サレタ犬釘ノ如クニ見ヘル。アノ下ガ朝陽ト言フト、自動車マデガ、踊り出スヤウニ速イ。町端レニ來タトイフノデ眼鏡ヲトルト、隣ニ座ヲ占メタ某氏が、マルデ米屋ノ小僧ノヤウニ眞白ナ埃リ姿タニ、油汗ヲニジマセテキル。ツイ先頃マデノ戦塵モココバカリハ面恥カシクテ、除ケテ通リスギタノカ、「朝陽太平門」ノ扁額ガガツチリト城門ニ掛ツテキル。城内ハ喇嘛ノ祭禮トアツテ掘り返シタヤウナ騒ギ振りデアル。其ノ昔、清朝華カナリシ頃ノ夢ヲ彫シダ「鳳鳴朝陽」

ノ牌樓ニ目ヲ見張ル内ニ早ヤ宿舍ニアテラレタ去ル旅館ニ着イタ。トイツテモ、支那家屋ニ手ヲ入レ、足ヲ着ケタ逸物デ、肩ヲ入レ腰ヲ下スニハコト缺カストイツタ代物デアル。喉ヲ潤シ顔ヲ洗フト、人並ニ喇嘛寺トヤラニ、心ヲ惹カレ始メタ。丁度頃合ハヨシト腰ヲ上ゲル頃、某氏ニ水ヲ向ケラレタカラ否トイフ筈ハナイ。二列ニ軒ヲ並ベタ出店ノ堤ノ間ニ渦ヲ卷イテ流れ込ム雑踏ニ吸ヒ込マレテ、ウツカリスル内ニ連レテ失ツテシマツタ。マヽヨトバカリ獨リキ

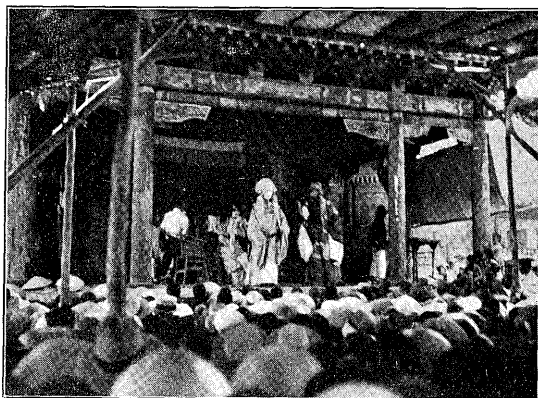


Fig. 30. ワメク藝術支那芝居ノ一場面

メ込ンデ、ワメク藝術、支那芝居ノークギリヲ拜見ニ及ンダ。何ンダカ、知ラヌガ狭イ舞臺ヲ文字通り、處狭シト立ち廻ツタ揚句、綺麗ニ着飾ツタ娘が授ハレタノデアルガ、一向ニビント來ナイ。四圍ノ見物が喝采スルノデ「クライマックス」ト知ルノミデアル。ソレデモ歌舞伎ヲシタリ顔ニナガメタリ、批評シタリスル西洋人ヨリハ判ツタツモリデアルカライイ氣ナモノデアル。

ソウ芝居ノ話デ思ヒ出シタガ、ツイ先頃何某劇場カニ掛ツテキタ、生キタ駱駝マデ引張り出ス大芝居ニ、朝陽ノ喇嘛塔カラ撞キ出ス鐘ノ音トイフノガアツタガ、オ氣ノ毒ダガ、風鈴式ノモノナライザ知ラズ、撞キ出スヤウナノハ懸ツテキナイ。喇嘛塔ノ朝ヲ「ミレイノ晩鐘」ニナゾラヘルナド、知ツテキテヤツタトスレバ少々罪ガ深い。コレハ又道ガソレ過ギタ。併シ物ハ試シト、裏街ヲ覗クコトニスルト、イヤハヤ、道ヲ流レル下水カ、下

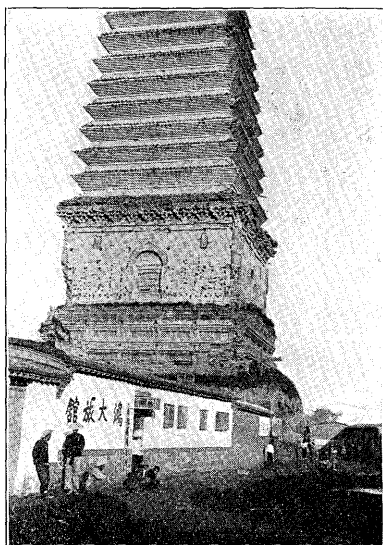


Fig. 31. 釣鐘ノ無イ喇嘛塔ノ朝

水ヲ縫フ道カ、鳥ノ雌雄ニモ勝ル難題ガフンプントシテキル、其處ヲ我がモノ顔ニ選ンデ、水浴ビト、シヤレ込ンダノガー西ノ雌豚、臨月モ程近い腹ヲ抱ヘテノ武者振リヨロシク、九彩ノ虹ト飛来ヲ擧ゲテキル。コレニハ流石ニ汚物ヲ棲家トスル、馬蠅ノ一隊モ兜ヲ脱イダト見ユテ、ドツト飛ビ立ツテ街角ヲ左ニソレテ、何方レヘカ消エ去ツタ。偕テ、飛ビ石傳ヒニデモ、通レレバト念ジテラ、ヤオラ差シ出シタ右足ノ下デ糞東ガ怪シゲニ泡ヲ吹イテ沈ンデ行ク。ドウモコレデハ急ガナクモ廻リ道ヲシタ方ガ良サソウデアル。

朝陽ニ於ケル調査ハ先ヅ井水カラ汲ミ上ゲラレタ。其ノ結果ハ大體 7.4—7.7 pH デアルカラ先ヅ弱アルカリ性デアル。ソコデ郊外ヲ流レル大凌河ノ水ヲ測ツテ見ルト、コレモ亦大差ハナイ。島ノ土ヲ蒸留水デ振出シテ見ルト矢張り大同小異デアル。コノ點カラ見ルト南滿洲地方ト略類似ノ土性ヲ呈スルヤウニ考ヘラレタ。コノ考察ハ筆者ガ歸京後東大植物學教室デコノ地ノ土壤ヲ分析シテ見タ結果ニヨツテモ裏書サレタノデアルガ又、朝陽ヨリ凌源、平泉ニ互ル一帯ヲ旅行シタ時其ノ作物特ニ高粱ノ成育振リガ南滿洲地方ニ似通ツテキル事カラモ、其ノ一端ガ窺ハレル。又野菜物等モ割合ニ豊富デ毎朝、宿ト喇嘛寺ノ入口トノ間ニ立ツ、市ヲ覗イテ見タガ出来モ相當デ、中デモ最モ目ヲ惹イタノハ、小笠原産ノヤウナ大茄子、コレヲ「暗夜ニヘタヲ着ケタヤウナ大茄子」ト形容シタラ、流石ノ白髮三千丈子モ三舍ヲ避ケルデアラウ。ソレニ名物ノまぐわ瓜ヤ西瓜ダノ、とうがん、白瓜ノ類ガ



Fig. 32. 一物モ歸ハノ大凌河徒涉風景、背後ハ朝陽ノ喇嘛塔

列ブ等ハ内地ト少シモ違ハナイ。併シ葉付キノ唐辛子ガ斷然優勢ナトコロカラ見ルト、住民ノ嗜好ノ程ガ窺ハレル。

朝陽ニ於ケル明ケ暮レハ鳳凰山塊ト其ノ主峯ナル麒麟峯ニ續ク岩場デ、一層光彩ヲ添ヘテキル。今朝ハ愈々コノ山中ニ分ケ入ラウトイフノデ、輕機關銃ヲ一丁加ヘテ物々シイ、植物採集行デハアル。敵ハ要害ノ地ヲ占メ云々ト、斥候ノ報告ガアツテモ良イ程、何ニシロ難物ノ大凌河ノ渡渉ガ控ヘテキル。ソレニ先頃ノ豪雨デ未ダ多少ハ増水シテキルトノコト、希臘ノ戰話ニ

「ヒント」ヲ得タ譯デハナイガ、「エパミノングス」ノ戰車ヨロシク驢馬車ヲ一輛徵發ニ及ンデ、其ノ上ニ乗ツテ對岸ヘ切り込マウト云フ寸法。如何ニモ計畫トシテハ、仲々見上ゲタモノデアル。兎ニ角、實驗ハ百論ニ如カズトイフ譯デ、吾ハト思フ面々ヲ満載シテ川ニ乗り入レタ迄ハヨイガ、程良イ所迄來テ、ハタト立往生。徒ニ鞭ガ川風ヲ切ツテヒュー、ヒュート鳴ル。進ムモノラズ退クモノラズ、山陽ニ一筆煩ハシタイ所デアル。ソウカトイツテ止ル譯ニハ猶ホ行カヌ。ソレハ、流レノタメニ、川底ガ掘リ下ゲラレテ、車ハ段々ニ沈ンデ行ク。コレガ本當ノ身體谷マルトイフモノデアル。マ、ヨト元氣ナトコロヲ見セタノハ良イガ、今度ハ己ノ吃水線ガ一步毎ニ深マツテ行ク、コレハイカント尻込スル程ニ、倍テ、一步モ踏マズトモ同ジコトデアル。背水ノ陣等トハ少々勝手ガ違フ、正ニ水中ノ陣デアル。ア、遂ニ第二ノ關門齊ハ嚙マス内ニ水中ニ没シテシマツタ。待ツタトイフ間モアバコソ、沼々トシテ既ニ第三ノ關門、乳房ヲ目指シテ溯ル水ヲ如何セン。(續ク)